

か|か|み|が|は|ら 市議会だより

2019年11月15日発行

No. **176**

3月 6月 9月 12月

令和元年9月定例会

議案概要

**平成30年度
決算・主な事業** P.3

委員会審査

**市長と意見交換
バスのダイヤを改正** P.4

委員会審査

**ドローンを活用
橋梁点検を効率化** P.6

一般質問

**決算の総括
次年度予算に向けて** P.8

一般質問

**地域公共交通
経路検索の強化へ** P.9

一般質問

**鵜沼東部地区
交通量増加への対応** P.10



公園に飲食店などを設置できるよう
条例を改正（関連記事は2ページ）



今号の表紙
明るい未来に向かって

秋晴れの中で行われた、各務原市体育協会主催の市民陸上競技大会。

小学生から一般の男女まで、100m走や5000m走、走り幅跳びなどを行い、日ごろの練習の成果を発揮しました。

一般質問

**17人が
市政を問う** P.8~

令和元年9月定例会

議案概要

定例会を8月29日から9月27日までの30日間開催し、令和元年度一般会計補正予算をはじめとする37案件を審議しました。

予算に関する議案

令和元年度一般会計補正予算

当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算などの補正を行うもので、主なものは次のとおりです。

歳入の主なもの

▼財産収入

各務山土地造成事業に必要な市所有地を、土地開発公社に売却することで得られる収入を増額するものです。

1342万円

歳出の主なもの

▼財産管理費

新鵜沼台地区の過度に密集した森林において、通行の妨げとなる木を除去するための経費を増額するものです。

321万2千円

▼土木総務費

城山周辺（鵜沼南町地内など）の市所有地にある建物の収去、土地の明け渡しなどを求める訴訟を行うための経費を増額するものです。

66万円

▼図書館施設整備費

中央図書館の雨漏りを修繕するため、外壁改修工事の設計を行う経費を増額するものです。

541万9千円



開館から28年が経過した中央図書館

▼高齢者福祉対策費

非常用自家発電設備の整備を行う高齢者施設に、補助金を交付するための経費を増額するものです。

749万9千円

▼情報化推進費

印鑑登録証明書に旧氏きゅうしを記載できるよう、システムを改修するための経費を増額するものです。

308万円

条例に関する議案

市街化調整区域における開発行為の許可の基準

に関する条例の制定

市街化調整区域（市街化を抑制すべき区域）において、住宅の建築などの開発行為を可能にするため、開発許可の基準を定めるものです。

都市公園条例の一部改正

民間業者が公園に飲食店などの収益施設を設置・運営できるようにするため、施設の建築面積の特例や使用料などを定めるものです。

その他の議案

総合計画基本計画

総合計画基本構想に掲げる市の将来都市像を実現するため、取り組むべき施策を明らかにする計画です。

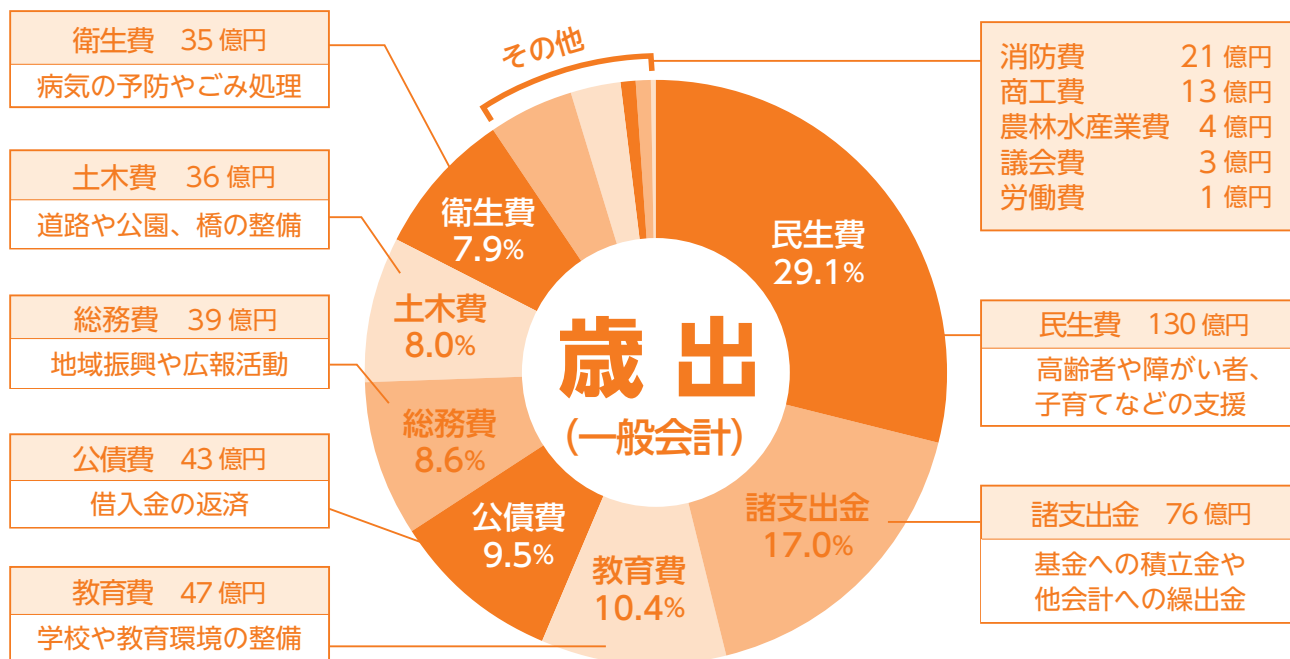
令和2年度からの5年間を後期基本計画として、諸施策の方針や達成指標などを定めようとするものです。

決算

税金の使い道をチェック

平成 30 年度に各務原市が使ったお金（歳出）を円グラフで示しています。

決算では、入ってきたお金（歳入）は 478 億 6402 万円、歳出は 448 億 618 万円となりました。歳入と歳出の差は 30 億 5784 万円となり、繰越金として次の年度に使っていきます。



平成30年度の主な事業

母子健康包括支援センター事業 (衛生費)

安心して子育てできる地域づくりを目指して、母子健康包括支援センター「クローバー」を開設しました。

クローバーでは妊娠・出産・子育ての総合相談窓口として、切れ目のない支援に努めました。

雇用対策事業 (労働費)

人材確保に課題を抱える市内企業を支援するため、合同企業説明会や市内企業見学会、保護者向けセミナーを開催したほか、インターシップの参加にかかる費用の助成などを行いました。

コミュニティ・スクール事業 (教育費)

地域・学校・家庭が連携し、義務教育9年間を見通した子どもの成長を支援することを目的に、稲羽・川島中学校区に学校運営協議会を設置しました。

また、次年度に他の4中学校区にも同協議会を設置するための準備を行いました。

橋梁維持改良事業 (土木費)

市が管理する橋梁を長期に渡り使い続けるため、定期的な点検を行うとともに、計画的な修繕や耐震化を実施しました。

各務原大橋の定期点検では、ドローンなどのロボットを活用し、点検の効率化と費用の削減に努めました。

高機能消防指令センター 部分更新事業 (消防費)

高機能消防指令センターのシステム全体の信頼性をより向上させ、迅速で確実な指令業務を行うため、機器更新と機能の追加を行いました。



119番通報から活動終了までの指令を迅速に行う

委員会審査

議案を分野別に4つの委員会に分け、詳しく審査を行いました。
各委員会での主な質疑の内容は次のとおりです。

総務常任委員会

平成30年度一般会計決算

問 かかみがはらオープンプラスでの相談で、市内への移住につながった人数は。

答 9世帯22人で、内訳は20代から30代が15人、50代が7人であった。

問 まちづくり活動助成金の予算執行率が低い要因は。

答 事前に相談があった団体を予算に見込んでいたが、実際には申請されなかったり、翌年度に申請を見送ったりした団体があったためである。

問 休日市民相談を試験的に実施したが、その結果は。

答 4月から9月までの第3日曜日に計6回開催し、一般相談が7人、法律相談が29人であった。



まちづくりミーティングで意見交換

問 市長と市民が意見交換を行うまちづくりミーティングでは、どのような意見が市政に反映されたのか。

答 若者を市内に呼び込むための首都圏でのプロモーション活動の事業化や、ふれあいバスのダイヤ改正などを反映した。

問 空家予防セミナーの参加者の声は。

答 参加者からは「自分が元氣なうちに整理しておきたい」「空家対策として考えておかないといけないことが整理できた」などの意見があった。

問 防災備蓄品のアルファ米や飲料水、毛布、トイレは市全体でいくつあるのか。

答 アルファ米は2万8050個、飲料水は2リットルのペットボトルが5490本、毛布は5700枚、組み立て式の仮設トイレと持ち運び可能な簡易トイレを合わせて150基を備蓄している。

会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定

問 市役所の臨時・嘱託職員の数は。

答 9月1日現在で615人である。

問 全員が会計年度任用職員に移行するのか。

答 基本的には全員移行するが、これまでの勤務成績などの能力実証を経て移行することになるため、必ずしも全員とは限らない。

民生常任委員会

平成30年度一般会計決算

問 市税の納付方法別の割合とその傾向は。

答 □座振替が46・6%で前年度と比較して横ばい、金融機関での納付が27・9%で低下傾向、やや上昇傾向なのがコンビニ収納の24・5%とクレジット収納の1・0%である。

問 生活保護費が返還された主な理由と件数、金額は。

答 受給者に給与収入があったことが後から判明した場合や、さかのぼって年金がもらえるようになったのに申告がなかった場合などがあり、219件、約2640万円の返還があった。

問 小児慢性特定疾病児童等日常生活用具給付事業の内容は。

答 白血病や糖尿病、膠原病などの継続的な治療が必要となる、小児慢性特定疾病にかかっている子どもを対象とした支援制度であり、車いすや入浴に必要な器具などを支給している。

問 放課後等デイサービスの利用者の推移は。

答 前年度と比較して、のべ899人増加している。

問 サービスの利用者が増加した要因は。

答 子どもを預かるだけではなく、社会性を身につけたり勉強したりするなど、多様なメニューがあることや、子どもを学校まで迎えに行つて自宅まで送ってくれるため、家の近くに事業所がない方も利用しやすいサービスであるためと考えている。

問 4歳児視力検査において、弱視などで再検査となつた割合は。

答 約1200人が検査を行い、そのうち異常ありと診断された後に再検査された方は約1割であった。

問 にんじん・大学・介護連携企画事業での試食会や提供イベントの反応は。

答 市内の介護施設で、ニンジンを使った介護食の試食会を行った。

考案した学生からは「喉に詰まらないよう、ニンジンを柔らかくしながらも食感を楽しめる

よう工夫した」介護現場の職員からは「学生の活気で利用者も笑顔になったので、今後も続けて欲しい」といった声が寄せられた。



ニンジンを使った介護食の試食会

平成30年度国民健康保険事業
特別会計決算

問 財政運営が市町村から都道府県単位となり初めての決算だが混乱はなかったか。

答 制度の改正内容を被保険者に対して事前に周知し、保険料は剰余金などを活用して前年度と同等の額になるように設定したため、特に混乱することとはなかった。

経済教育常任委員会

平成30年度一般会計決算

問 ふるさと納税の寄附金が前年度より約4400万円増加した要因は。

答 寄附の受付窓口となるポータルサイトを「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」に加え「ANAのふるさと納税」も増やした。

そのほか、カタログ作成やメルマガの配信などPRに努めたことによるものと考えている。

問 雇用対策事業の主な成果は。

答 航空機関連企業の本スツアールを行ったところ、大學生72人から申し込みがあり、参加者を41人に絞って開催した。

そのうち6人が市内企業を受験し、4人の入社が内定したと聞いている。

問 夏休みに開催した畜産体験教室の内容は。

答 普段触れ合う機会の少ない家畜と接し、畜産業への理解や命の尊さなどを育むため、小学5・6年生を対象に岐阜大学の畜舎見学や牛の飼育、

乳搾り、ニワトリの採卵などを行った。



牛の飼育を体験する小学生

問 各務野科学ラボ事業での講座の主な内容は。

答 岐阜大学の教授から「植物に含まれる色素の不思議について」岐阜工業高校の先生からは「飛行機が飛ぶ仕組みについて」などを学んだ。

問 市内遺跡発掘調査事業の試掘調査の結果は。

答 鵜沼真名越町や蘇原野口町の周辺で、古代の集落が新しく見つかるなど、市内全域的に良好な史料を収集することができた。

建設水道常任委員会

平成30年度一般会計決算

問 道路維持補修などの自治会要望に対応した件数は、

答 緊急性や危険度を見て総合的に判断をした結果、

826件の要望に対して622件対応した。

問 ブロック塀撤去補助金の申請件数が前年度に比べ増加した要因は。

答 補助の上限額を10万円から30万円に増額したことや、補助金額決定のために必要な標準事業費を1㎡当たり7千円から1万円に増額したことで、利用しやすい制度に改定した。

また、この改定について新聞などで取り上げられたことなどにより、申請件数が増加したと考える。

問 ドローンなどを活用した橋梁点検の効果は。

答 各務原大橋の通常点検は、超大型橋梁点検車を約10日間使用するため、点検費用を約3千万円と見込んでいた。

しかし、ドローンやロボットなどを活用し、橋梁の損傷して

いる箇所を事前に把握したことで、大幅な効率化が図られ、点検車両の使用を4日間に抑えることができ、約600万円の費用の削減や、道路規制期間の短縮につながった。



橋脚の打音検査を行うドローン

平成30年度下水道事業

特別会計決算

問 下水道使用料の改定をどのように周知したのか。

答 使用料改定のチラシを作成し、3万2439戸にポスティングした。

また、ポスティングが困難な利用者1171戸には郵送により周知を図った。

市街化調整区域における開発行為の許可基準

に関する条例の制定

問 この条例を定めることに至った経緯は。

答 既存コミュニティの維持・活性化や、移住定住を促進するために立地基準などを定め、市内に人を呼び込みたいと考えている。

問 建築物の敷地面積の最低限度を250㎡とした理由は。

答 自然豊かな市街化調整区域において、余裕ある敷地でゆとりある生活をしてもらうためである。

問 具体的にどの地域を指定するのか。

答 稲羽東小学校周辺地域を予定している。

令和元年度一般会計補正予算

問 排水路改良事業の目的と場所は。

答 ため池の水位を下げるために実施する工事であり、緑苑と新鵜沼台の境界付近にある合戸池、松が丘の奥池、苅池、あび池、清住団地北側の持田池の5カ所を予定している。

令和元年7月臨時会

臨時会を7月30日に開催し、工事請負契約締結の1案件を審議しました。

工事請負契約の締結

各務原市新庁舎建設工事を、一般競争入札の結果、大日本・天龍・協和・足立特定建設工事共同企業体と6億5500万円

で契約を締結しました。

※「特定建設工事共同企業体」とは？

大規模で技術難度の高い工事の際に、技術力などを結集し施工するために結成するものです。



全議員も出席した新庁舎建設工事の安全祈願祭

審議の結果

議案等の審議の結果は以下のとおりです。

賛成全員…◎ 賛成多数…○ 賛成少数…△

令和元年 7 月臨時会

議案等の種類	案 件 名	審議の結果	採決の状況
契 約	工事請負契約の締結（新庁舎建設工事）	同意	○

令和元年 9 月定例会

議案等の種類	案 件 名	審議の結果	採決の状況
決 算	平成 30 年度一般会計決算の認定	認定	○
	平成 30 年度国民健康保険事業特別会計決算の認定	認定	○
	平成 30 年度介護保険事業特別会計決算の認定	認定	◎
	平成 30 年度後期高齢者医療事業特別会計決算の認定	認定	○
	平成 30 年度下水道事業特別会計決算の認定	認定	○
	平成 30 年度水道事業会計決算の認定	認定	◎
補 正 算	令和元年度一般会計補正予算（第 2 号）	可決	○
	令和元年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第 1 号）	可決	◎
	令和元年度介護保険事業特別会計補正予算（第 2 号）	可決	◎
	令和元年度下水道事業特別会計補正予算（第 1 号）	可決	◎
条 例	会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例	可決	○
	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例	可決	○
	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例	可決	◎
	消防団条例の一部改正	可決	◎
	手数料条例の一部改正（消防本部所管分）	可決	○
	印鑑条例の一部改正	可決	◎
	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正	可決	◎
	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の保育料に関する条例の一部改正	可決	◎
	個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正	可決	○
	市街化調整区域における開発行為の許可の基準に関する条例	可決	○
	都市公園条例の一部改正	可決	○
	手数料条例の一部改正（都市建設部所管分）	可決	◎
	企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正	可決	○
	水道事業給水条例の一部改正	可決	◎
人 事	固定資産評価審査委員会委員の選任（廣瀬悟道氏）	同意	◎
	人権擁護委員候補者の推薦（村瀬みどり氏）	同意	◎
その他	総合計画基本計画	可決	○
	土地の処分	可決	○
	訴えの提起	可決	○
	平成 30 年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分	可決	◎
	市道路線の認定（市道蘇北 794 号線ほか 1 路線）	可決	◎
	市道路線の認定（市道稲 941 号線）	可決	◎
	市道路線の廃止及び認定（市道那 1130 号線）	可決	◎
議 員 提 案	議員派遣の件（市議会だより編集に関する調査）	可決	◎
	新庁舎建設調査特別委員会の廃止決議	可決	◎
	都市計画事業基金条例	否決	△
	豚コレラ対策の強化を求める意見書	可決	◎

一般質問

9月定例会で一般質問をした議員（質問順）

岩田紀正／黒田昌弘／古川明美／津田忠孝／坂澤博光／吉岡健／池戸一成／大竹大輔／川瀬勝秀／杉山元則／波多野こうめ／永沼明子／小島博彦／水野岳男／指宿真弓／塚原甫／五十川玲子

市政全般にわたる事務の執行状況や政策方針などを、各議員が市に
対して質問しました。その一部を紹介します。

平成30年度決算の総括

令和2年度の予算編成に反映

問 平成30年度決算をどのよ
うに総括するか。

答 平成30年度は「人を育む
施策」「安全・安心な暮
らしを守る施策」を充実させて
きた。

例えば子育ての分野では、母
子健康包括支援センター「クロ
ーバー」を開設し、妊産婦、乳
幼児とその保護者に切れ目のな
い支援を行ってきた。

防災の観点からは、公共施設
のブロック塀の緊急点検や市民
に対するブロック塀撤去補助金
を拡充し、安全・安心のまちづ
くりを推進した。

決算では、市税収入が6年連
続で増収となったほか、一般会
計と全ての特別会計で実質収支

が黒字となった。

基金残高は、将来の公債費に
備えた減債基金への積み立てな
どにより、対前年度比約4億円
増の約275億円となった。

市債は、償還や利率見直しを
行った結果、対前年度比約26億
円減の約290億円となった。

問 決算を令和2年度予算編
成にどう反映するか。

答 令和2年度の予算編成に
あたっては、地域や各個
人・団体などの「つながりづく
り」をより強く進めていくため
の第一歩となる事業を盛り込み
たいと考えている。

今後、対話を通じて将来の
まちの姿を見据えながら、確実
に市政の歩みを進めていく。

被災時の初動体制の
確立のための方策

問 中小河川の水害危険情報
を含めたハザードマップ
の改定時期は。

答 今年度は、国が公表した
本市の主な河川（木曽川、
境川、新境川、大安寺川）の洪
水浸水想定区域図のデータと、
県が独自で作成した、岩地川の
情報を含む水害危険情報図を合
成し、指定緊急避難場所などの
適正調査を行っている。
その結果を踏まえ、令和2年
度に洪水ハザードマップを改定
する。

スポーツから始まる
まちづくり

問 スポーツを通じた健康増
進に取り組むため、どの
ような施策を考えているか。

答 ソフト面では、現在は子
どもから高齢者まで参加

できる軽スポーツ大会や、仕事
で忙しく運動不足になりがちな
子育て世代に向けた親子のスポ
ーツテストなどを行っている。
ハード面では、例えば総合体
育館は施設の老朽化に加え、駐
車場も狭く利用者に不便をかけ
ているため、今後は市民ニース
や利用実態を踏まえて、施設の
更新や機能の見直しなどを検討
していく時期に來ていると感じ
ている。



スポーツを通じて健康増進

最適な公共交通ネットワークを構築

ふれあいバスを含めた経路検索を展開

問 本市の地域公共交通（鉄道、バス、タクシー）に対する姿勢は。

答 市では平成27年に地域公共交通網形成計画を策定し、地域公共交通の目指す姿と、その実現に向けた基本方針や具体的な取り組みを示している。

今後も公共交通を取り巻くさまざまな情報の収集に努めるとともに、引き続き市民ニーズをくみ取り、交通事業者との相互連携を図っていく。

そうすることで、市民にとって最適かつ持続可能な公共交通ネットワークの維持に向け、主体的な役割を担っていきたい。

問 地域公共交通の利用促進策を展開する考えは。

答 既に一部のウェブサイトで、ふれあいバスも含めた運行検索ができるが、来年度初めまでには、グループなどのウェブサイトにおいても、バスなどの情報を相互連携し、スムーズな経路検索ができるようにする。

また、ふれあいバスも含めた運行検索ができるが、来年度初めまでには、グループなどのウェブサイトにおいても、バスなどの情報を相互連携し、スムーズな経路検索ができるようにする。

問 将来の福祉交通網をどのように考えているか。

答 自動運転などの技術革新により、現在の形から福祉交通網が変化していくことも予想される。

鉄道、バス、タクシーなどの交通や高齢者等移動支援事業に加え、高齢者のニーズや地域特性を踏まえた新たな手法について検討を行い、高齢者にとって利便性の高いものとしていきたい。



ふれあいバスとの乗り継ぎを検索

学校給食センターの多機能化

問 全ての小中学校の給食調理業務を学校給食センターで一括管理してはどうか。

答 現在、市内小中11校が給食センターを利用しているが、今後、児童生徒数の減少に伴い、食数の減少が見込まれることから、自校で給食を調理している学校を、給食センターでの調理に切り替えていくことを計画している。

問 災害時に給食センターを活用してはどうか。

答 給食センターの調理業務委託契約には、市の地域防災計画に基づき、被災者支援のために協力することが規定されており、受託業者が協力できる範囲で施設を活用できるよう計画している。

さまざまな世代への雇用対策

問 現在40歳前後の就職氷河期世代への就労支援は。国が進める「就職氷河期世代支援プログラム」の

検討内容を踏まえ、県や労働局などの支援機関とも情報共有しながら課題把握と支援に努める。

問 「シニア・リソース・バンクプロジェクト」の狙いは。高齢者向けセミナーなどで、潜在する労働力を発掘し、人材バンクへの登録や求職者ニーズを把握する。

答 企業には、高齢者活用への意識啓発セミナーの開催や個別訪問による就業環境整備の助言などを行い、高齢者と企業との就労マッチングを支援する。

これらにより企業の人手不足の改善と高齢者の介護予防、医療費の抑制なども期待できる。



高齢者向け企業見学会で介護の仕事を体験

鵜沼東部地区にイオンタウンが出店

歩行者の安全確保や交通の円滑化を図る

問

開業に伴う交通量の変化に対し、歩行者の安全は担保できるのか。

答

イオンタウンへのアクセス道路となる伊木山通りは、ＪＲと名鉄の踏切があり、朝夕の通勤・通学時間帯は交通量が多く渋滞が発生している。開業後は交通量のさらなる増加が見込まれることから、児童や歩行者などへの安全対策に向け、公安委員会や開発事業者と協議を重ねてきた。



イオンタウン開業に向け交通環境を整備

その結果、信号機や横断歩道、歩車道の境界に防護柵の設置などを行うこととなった。

問

周辺道路や生活道路への影響は。

答

伊木山通りとにんじん通りとの交差点の北側は、右折レーンが設置されていないため、渋滞の原因になることが予想される。

また、主要なアクセス道路への交通集中を緩和するため、犬山東町線バイパスや新たな道路の整備を検討し、交通の分散化を図る必要がある。

開業後は、実際の交通状況を確認した上で、必要に応じて交差点改良や横断歩道設置などの歩行者の安全確保や交通の円滑化に取り組み、住環境の保全に努めていく。

問

開発事業者と地域が共生するための市の役割は。

答

開業後の安全対策や想定外の事項への対応などについて、市民の意見も聞きながら、事業者へ働きかけていく。

新那加駅周辺の バリアフリー化

問

地下通路の位置付けをどのように考えているのか。

答

現在、地下通路は終電から始発までの間は閉鎖されているが、利便性向上のため、鉄道利用者以外でも24時間通行できるようにし、来年度には自由通路として条例で位置付ける。



新那加駅の地下通路

問

バリアフリー化の進捗状況は。

答

これまで、駅周辺の歩道や多目的トイレの整備などを進めてきた。

現在は、地下通路へのエレベーター設置工事を行っており、今年度末に完成予定である。

認可外保育施設への 対応

問

認可外保育施設とはどのような施設か。

答

児童福祉法に定める保育所などの業務を行う施設のうち、県などから認可を受けていない施設である。

市内には、英語教育に特化した施設や外国人向けの施設、企業が従業員のために開設した施設などがあり、多様化する市民ニーズに対応している。

問

認可外保育施設への今後の市の対応は。

答

10月から始まる、幼児教育・保育の無償化では、認可外保育施設も対象となるため、市は今後、一定の指導の役割を担うことになる。

今後は、認可・認可外関係なく市内の保育施設全体の質の向上に向けて、市の保育士研修会などへの参加を呼び掛けるなど交流の機会を増やし、顔の見える関係づくりを構築していく。



瞑想の森にある合葬式墓地

合葬式の申し込み開始

問 合葬式墓地の内覧会の状況は。

答 6月の内覧会では、2千人を超える来場があり、7月の追加開催では約700人の来場があった。

問 合葬式墓地申し込みの受付体制は。

答 受付当初は大勢の方の申し込みが予想されるため、臨時窓口を設置するほか、申請書類や申請の手続きなどをまとめた「申し込みのしおり」を配布するなど、スムーズに受付が

できるように努めていく。

なお、生前登録の申し込みの受付は11月8日から開始する。

問 今後の墓地整備の見通しは。

答 合葬式墓地の区画は十分に用意しており、早々に空きがなくなることはないと考えているが、区画がなくなることは見込まれる場合は、2つ目の合葬式墓地の整備などについて検討していく。

妊産婦への支援

問 妊娠段階から産後における行政と医療関係との連携や精神面の支援は。

答 母子健康包括支援センター「フローバー」では、

育児不安が強く支援が必要なケースは医療機関と連携し、妊娠中の健康管理、育児など精神面の支援を早期から行い虐待の予防にもつながっている。

また、産後も必要に応じて家庭児童相談室などの関係機関とも連携して継続支援を行い、保護者に寄り添い精神面のケアを行っている。

調査の報告

今後の市政に反映させていくため、委員会ごとに全国の先進事例を調査しています。

経済教育常任委員会

小・中学校の規模、配置の適正化に取り組んでいる北海道小樽市を視察した。

小樽市は平成16年以降、少子化が急速に進み、将来的にほとんどの学校が小規模校になることが見込まれている。

義務教育の機会均等と質の確保のため、時代の変化に即した教育内容の充実と、施設の老朽化に的確に対応していく必要があるとのことであった。

学校規模適正化が「目的」ではなく、現状の規模による課題を解決していくための「手段」であることを肝に銘じ、それぞれの地域事情に合わせて取り組んでいく必要性を改めて感じた。そのほか、登別市のコミュニティ・スクールと、恵庭市の読書のまち事業を視察した。

建設水道常任委員会

公園の質の向上を目的に、民間の飲食店を園内に設置した大阪府吹田市を視察した。

公園と一体感があり、飲食店の経験が豊富な事業者を選定したことで、行列ができる店でありながらも、公園の機能が保たれており、来園者の増加にもつながっている。

建物の建設は事業者が行っており、市としては敷地使用料などで年間約600万円の収入がある。

本市では、他の制度を活用して賑わいの創出に取り組むことになるが、学べる点は積極的に取り込んでいきたい。そのほか、松江市の水道事業の経営戦略と、倉敷市の中心市街地活性化事業の取り組みを視察した。

市民の声

こんな街が いいな！



夜道も怖くない 安心安全な街に

浅野知子さん（三井東町）

各務原市に生まれ育ち 60 年経ちました。
住みやすく便利なこの街が大好きです。
夜に車で木曽川堤防を岐阜から各務原方面に向かって走ると、笠松町は明るく、街並みが分かるのに、各務原市に入ると真っ暗なことに気がきます。
笠松町は犯罪防止のために街灯を設置したと聞きました。
私たちの街も、通学路や市街地でなくても街灯があり、夜間も安心して学校や仕事から帰れて、ウォーキングすることができる、事件・事故の無い笑顔あふれる安全な街になることを願っています。



住みよい街に

服部賢一さん（那加東亜町）

先日、那加駅を降りたところ、駅周辺は暗く、大勢の通勤通学の方が一目散に家路に急ぐ光景を目にしました。

昭和・平成・令和と時が流れて、人々の生活環境も大きく変わりましたが、東京の下町には、まだ昭和の面影が残り、見知らぬ人たちと世間話をしながら、一日の疲れを癒やす場所があります。

何でもないことかもしれませんが、そのような空間が、地域住民との触れ合いの場所となり、地域の活性化につながるとと思っています。

各務原市にもそんな場所ができることを望みます。



子育てしたい 街に

飯塚ひろよさん（蘇原沢上町）

東京から各務原市に引っ越してきて今年の夏で3年。
私は鹿児島、夫は北海道出身のため、岐阜での生活は知り合いゼロからのスタートでした。

当初は友達もなく、早く引っ越したいと思う日々でしたが、バランスボールエクササイズに会い、インストラクターになって知り合いがたくさんできました。

各務原市は、子育て支援活動をする市民団体も多く、人と人との繋がりを大切にするととてもあたたかい街だと感じています。

各務原市で子育てがしたい！と思う方が増えていくように、魅力をどんどん伝えていきたいです。

Q & A 教えて！議会中継

Q. どのような映像が見られるの？

A. 本会議の生中継映像や録画映像です。

Q. どんな機器で見られるの？

A. パソコンやスマートフォンなどです。

Q. どのような手順で見ればいいのか？

A. 市公式ウェブサイトから「各務原市議会」→「議会中継」と選択してください。

(注) 今後、You Tube では録画映像を見ることができなくなります。

議会を傍聴 してみませんか？

12月定例会の予定

11月27日(水)	開会
12月10日(火)～11日(水)	質疑、代表・一般質問
12月16日(月)～17日(火)	常任委員会
12月20日(金)	閉会

市議会だより編集委員会

委員長 | 水野盛俊 | 副委員長 | 水野岳男
委員 | 古川明美 塚原甫 小島博彦 指宿真弓

市議会の詳しい情報は各務原市公式ウェブサイトからご覧ください。

各務原市議会

検索



かかみがはら
市議会だより

発行 | 各務原市議会 岐阜県各務原市那加桜町 1-69
電話 | 058-383-2001 | 編集 | 市議会だより編集委員会

環境保護のため、
植物インキを
使用しています。

